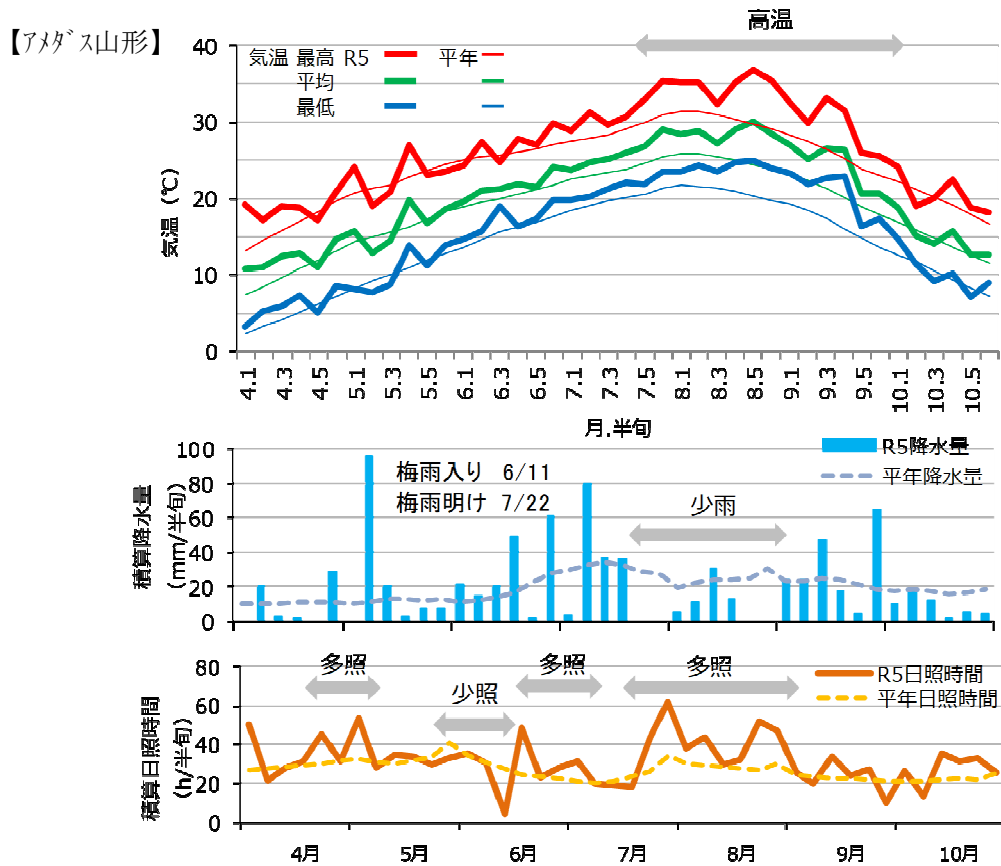


## 令和5年夏季の高温・少雨の影響と対応

## I 夏季の高温少雨の農畜水産物へ影響

## 1 気象経過

- 7月の梅雨明け以降、晴れて高温少雨の天候が続き、8月は猛暑日も多くなるなど、多くの観測地点で月平均気温が高い方から観測史上1位を更新。降水量も少なく、最上地域、庄内地域では月降水量が少ない方から観測史上1位を更新
- 9月も気温が高い日が多くなり、県内全ての観測地点で観測史上1位の値を記録



## 2 農作物への影響

## (1) 水稲

- ・ 令和5年産米の作柄概況（12月12日公表）は、「作況指数100」の「平年並み」
- ・ 12月末現在のうるち米の一等米比率は県平均で45.0%（全国第31位、前年同期95.1%）。
- ・ 品種別の一等米比率は、「つや姫」51.7%、「雪若丸」84.8%、「はえぬき」35.1%
- ・ 出穂期以降の記録的な高温の影響で、「白未熟粒」が多く発生し、特に高温で経過した庄内地域の品質低下が顕著

## (2) 大豆・そば

- ・ 大豆は8月の高温少雨、9月の高温の影響で、莢数の減少、小粒化、品質低下がみられている。収量は平年並み～やや少ない見込み
- ・ そばは結実不良及び充実不良がみられており、収量は平年並み～少ない見込み

### (3) 果樹

- ・りんごでは、日焼け果、みつ症、着色不良、果肉軟化、裂果、収穫前落果が発生
- ・西洋なし、日本なしでは、果実肥大の停滞、日焼け果が発生
- ・ぶどうでは、黒系・赤系の品種（「デラウェア」等）で着色遅延。全品種で日焼け果が発生
- ・ももでは、全品種で着色遅延。「あかつき」等で収穫期後半にみつ症が発生
- ・かきでは、果実肥大の停滞、日焼け果の発生、9月以降の降雨で、急激に土壌水分の変化し、果皮の水ぶくれ症状、生理落果が発生

### (4) 野菜

- ・すいかでは、草勢低下、茎葉の萎れ、うるみ果、日焼け果が発生
- ・トマトでは生育停滞、日焼けが発生。高温期の着果不良の影響で9月以降は収穫量減少
- ・えだまめでは、早生・中生品種で茎葉の縮れ、下位葉の黄化、収穫期の前進、晩生品種「秘伝」では開花のバラツキ、子実肥大の遅延・停止。特に8月下旬以降収穫の品種で、欠粒莢、未熟莢が多発生し大幅減収
- ・ねぎの露地栽培では、生育停滞、葉先枯れが発生。害虫が多発して減収を助長
- ・さといもでは、生育停滞、葉焼け、葉枯れ、株の枯死
- ・アスパラガスでは、曲がり、開き、扁平等の異常茎の発生

### (5) 花き

- ・りんどうでは、下葉の黄化、茎葉の縮れ、開花遅延、花卉の着色不良が発生
- ・きく・小ぎくでは、開花遅延が発生
- ・ダリアでは、生育停滞、下葉の枯れあがり、葉や花卉の焼け、花卉落花が発生
- ・トルコギキョウでは、9月以降出荷の作型で、花芽分化や開花の前進化、短茎開花、葉先枯れ症が発生
- ・ばらでは、7月から9月にかけて、シュート発生数の減少、短茎化、花の小輪化が発生
- ・アルストロメリアでは生育遅延、株枯れが発生
- ・ストックでは、花芽分化の抑制に伴う開花遅延が発生

## 3 畜産業への影響

- ・暑さによる家畜の死亡について、7月1日から9月15日までの死亡頭羽数は、牛103頭、豚100頭、鶏6,899羽であり、特に鶏の被害が多い

## 4 水産業への影響

- ・海面漁業では、酒田市でイガイ（約15トン）がへい死。海面養殖業では県栽培漁業センター（鶴岡市）で飼育のヒラメ親魚74尾、遊佐町のアワビ陸上養殖で約5千個がへい死

- ・内水面漁業では、全体的に河川水量が少なく、水温が高い状況が続き、一部河川内で少数のアユがへい死
- ・内水面養殖業では、ニシキゴイ稚魚約6万尾（長井市）、イワナ・ヤマメ約7千尾（小国町）、ニジサクラ約1千尾（小国町、庄内町）がへい死

## Ⅱ 令和5年夏季高温による農作物被害への対応

令和5年度12月補正予算「農作物の気象災害対応事業費」で以下の取組みを実施

### 【水稲分野】

- ・品質向上を図るため「色彩選別機」の導入の支援
- ・高温耐性の高い「雪若丸」の作付面積拡大に向けた種子生産体制整備への支援  
(R6年当初の予定作付面積 5,100ha⇒ 5,600ha 緊急拡大)
- ・高温耐性品種の開発加速化の取組み

### 【園芸分野】

- ・さくらんぼでの春の凍霜害、収穫期の高温等、気象災害に強く、安全性の高い新型の新型雨よけハウスの実証
- ・適切な灌水時期を判断するための水分モニタリングシステムの構築

### 【その他】

- ・水稲畑作物、園芸作物の高温少雨対策マニュアルの作成と現場での対策実施の周知と普及指導を図るための研修会を実施